

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-247519

(P2003-247519A)

(43) 公開日 平成15年9月5日 (2003.9.5)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ページ数 (参考)
F 1 6 B 37/00		F 1 6 B 37/00	Z 3 G 0 6 0
F 0 2 D 1/02	3 2 1	F 0 2 D 1/02	3 2 1 A 3 G 0 6 6
F 0 2 M 59/44		F 0 2 M 59/44	3 2 1 Q
F 1 6 B 37/14		F 1 6 B 37/14	S
			E
		審査請求 未請求 請求項の数5	OL (全 6 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2002-49378 (P2002-49378)

(22) 出願日 平成14年2月26日 (2002.2.26)

(71) 出願人 000006781

ヤンマー株式会社

大阪府大阪市北区茶屋町1番32号

(72) 発明者 澤田 耕一

大阪府大阪市北区茶屋町1番32号 ヤンマ
ーディーゼル株式会社内

(72) 発明者 佐茂 純一

大阪府大阪市北区茶屋町1番32号 ヤンマ
ーディーゼル株式会社内

(74) 代理人 100080621

弁理士 矢野 寿一郎

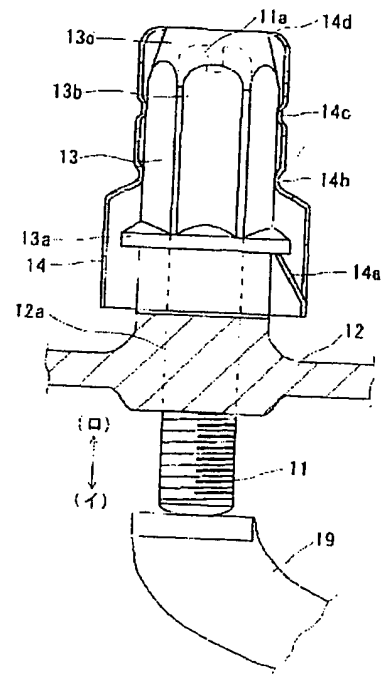
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 封印用ナット

(57) 【要約】

【課題】 従来、油密を要しない直噴式エンジンに配設される調節ボルトの封印装置において、封印用キャップに係止するにはロックナットや締付ナットやカラー部材が必要となり、部品点数が多くなっていた。

【解決手段】 調節ボルト11に封印用ナット13を螺装して取付位置を固定して封印用キャップ14を被せて封印する構造において、封印用ナット13を、中部外周に封印用キャップ14に形成した係止部14aに係止する係部13aを設け、その上部に工具嵌合部14bを設け、その下部を円筒形状とし、従来必要であった部品を一体化した。



レバー19の一端が当接可能に配設されている。該レギュレーターレバー19はガバナと連結されて、使用者が要求するエンジンの回転数に応じて回動できるようにしており、該レギュレーターレバー19の一端が調節ボルト11の先端に当接することにより、燃料噴射量が制限されて最高回転数が制限されるように構成している。

【0012】前記調節ボルト11の他端面には直径方向に切込み11aが形成されて、該切込みに11aにマイナストライバーの先端を差し込んで回転させることにより、ガバナケース12内への突出長さを調節して、最高回転数を設定することができる。実際には、図1における矢印(I)方向へ突出させることにより減速(回転数を減少)させることができ、矢印(II)方向へ退避させることで増速(回転数を増加)させることができる。

【0013】そして、前記ガバナケース12外側方向に突出した調節ボルト11の部分上に封印用ナット13が螺装され、該封印用ナット13を締め付けることにより、調節ボルト11の位置を決めて確定することができる。そして、調節ボルト11の突出部は後述するように封印用ナット13に覆われており、前記封印用ナット13の外側に封印用キャップ14が被せられ、調節ボルト11、封印用ナット13を回動できないようにしているのである。

【0014】次に、本発明の封印用ナット13の構成について、図1乃至図4より説明する。なお、軸心方向を上下方向とする。封印用ナット13は外周下側よりボス部13f、鍔部13a、工具嵌合部13b、テーパ部13dより一体的に構成しており、上下中部付近のボス部13fの上部外周には鍔部13aが設けられており、該鍔部13aはその外径をボス部13fや工具嵌合部13bの外径より大きくした薄い円筒状をしており、該封印用ナット13側面から突出している。前記鍔部13aより上部は二面中部を有する(本実施例では平面断面視で六角形状としているが、四角形とすることもできる)工具嵌合部13bとなっており、スパナ等の工具を嵌合して締め付け、または弛めることを可能としている。従来では、先に述べた如く、封印用キャップ14を被せる際には、締め付けナットとは別にロックナットやカラー部材等が必要であったが、これらの部品を一体化して封印用ナット13として前記のような構成をしたため、部品点数の削減につながり、組立て調整工数も低減されることになる。

【0015】前記封印用ナット13の二面中部を有する工具嵌合部13bの上部には、軸心側に円錐状に傾斜するテーパ部13dが形成され、後述する封印用キャップ14を被せる際には、前記テーパ部13dがガイドとなって組み付け性を向上させている。

【0016】封印用ナットの鍔部13a下部のボス部13fはロックナットのような形状とせず円筒形状としており、その高さを後述する封印用キャップ14の係止部

14aの上端位置の長さに合わせている。こうすることで、封印用キャップ14を被せた後において、封印用キャップ14に外力を加えて回転させようとしても、封印用キャップの爪状の係止部14aはボス部13fが円筒形状となっているため係止できずに空転することになる。

【0017】また、封印用ナット13の軸心部には貫通孔13cが上下方向に貫通開口され、該貫通孔13cの下部(本実施例では鍔部13aより下方)内周、言い換えれば下端から上方途中部までに調節ボルト11と螺合するネジ部13eが形成されている。このように内周を全ネジ構造としないことでボルトの倒れによる弛みを防止する。また、貫通孔13cの上部は開放されており、袋ナットのような構成とはせず、長ボルトにも螺装できるようにしている。但し、前記封印用ナット13上部を開放しない有底部を備える形状とすることも可能である。すなわち、キャップ付きのナット、袋ナットのような構成にしても差し支えない。

【0018】前記封印用ナット13の全長は、調節ボルト11を位置決めした際に、該封印用ナット13の上端から該調節ボルト11が突出しない長さとして、調節ボルト11が封印用ナット13に埋没するようにしている。封印用ナット13の上端を開放しているため、調節ボルト11が突出してしまうこともありうるが、このような長さとすることにより、ユーザーが一般工具で前記調節ボルト11を回転させることを困難にしている。

【0019】封印用キャップ14は、段付き円筒形状に構成されており、外周に複数箇所(本実施例では二箇所)の絞り部14b・14cを有している。前記絞り部14b・14cの内径は、封印用ナット13の工具嵌合部13bの長手側直径より若干小さくされており、封印用キャップ14を封印用ナット13の外周に摩擦押圧するようにして被せる。前記絞り部14b・14cは、それぞれ前記工具嵌合部13bと複数箇所の嵌合接点を有し、位置がずれたり、がたつきが発生しないようにしている。なお、下部の絞り部14bは前記封印用キャップ14を被せるときのスムーズなガイドとして役立ち、上部の絞り部14cは被せた後の封印用キャップ14のずれや倒れ、振れを防止する。また、封印用キャップ14上部には、貫通孔14dが開口されており、封印用ナットをその上部を開放しない有底部を備える形状とした袋ナットのような構成とした場合には、該貫通孔14dの周縁部が袋ナット先端の球面部の部分に密着当接するようにしている。

【0020】そして、封印用キャップ14の下部外周に複数箇所(本実施例では3箇所)爪状の係止部14aが内側へ斜め方向に折り曲げられて形成している。該係止部14aが封印用ナット13に封印用キャップ14を上方より被せたときに、前記鍔部13aに引っ掛かることにより、該封印用キャップ14が係止される。このと

き、前記鍔部13aはガイドとなって封印用キャップ14を係止する位置を決めている。つまり、前記係止部14a先端から封印用キャップ14の基部端までの長さ、封印用ナットの鍔部13aより下部の長さを略一致させている。

【0021】このような構成において、組み立てた後に最高回転数を調整するとき、調節ボルト11を取付部（ガバナケース）12に螺装して、調節ボルト11上端に形成した溝11aにマイナスドライバー等を差し込んで回転して、設定回転となる位置で、調節ボルト11をマイナスドライバーで保持しながら封印用ナット13を締め付けて位置固定し、その上から封印用キャップ14を押し込んで被せるのである。このとき、調節ボルト11の外側の突出部分は封印用ナット13内に十分収納されており、封印用キャップの絞り部14b・14cは封印用ナット13の側面を押圧しながら摩擦移動し、がたなく被せることができ、終端まで押し込むと、爪状の係止部14aの先端が封印用ナットの鍔部13aの取付部12側の面に引っ掛かり、抜けないようになる。こうして、封印用キャップ14が被せられた状態では封印用ナット13は外からは見えなくなり、工具等で弛めることができなくなり、ユーザーがいたずらに調整ボルト11を回転して最高回転数を変更できないようにしている。そして、サービスマン等がメンテナンスや修理等において、再調整する場合には、封印用キャップ14を切り裂く等して取り外し、封印用ナット13を弛めて、調節ボルト11を回転して再調整する。その後、封印用ナット13を締め固定し、新たな封印用キャップ14を外側から被せるのである。

【0022】

【発明の効果】本発明は、以上のように構成したので、以下に示すような効果を奏する。

【0023】即ち、請求項1に示す如く、調節ボルトに封印用ナットを螺装して取付位置を固定して封印用キャップを被せて封印する構造において、前記封印用ナットを、中部外周に封印用キャップに形成した係止部を係止する鍔部を設け、その上部に工具嵌合部を設け、軸心部に貫通孔を開孔して、該貫通孔の下端から内部途中までの内周にネジ部を形成したので、従来のロックナットやカラー部材等を一体的に構成した封印用ナットとすることができ、封印装置の構造簡略化及び組立て調整工数の低減を図ることができる。また、部品点数を減らすとともに、コスト削減も図られる。更に、封印用ナットを全

ネジ構造としていないことにより、ボルトの倒れによる弛みを防止できる。

【0024】請求項2に示す如く、前記封印用ナットの全長を、該封印用ナットに締め付けられる調節ボルトの一端が該封印用ナット上端から突出しない長さとしたので、調節ボルトに一般工具が直接取り付けのを防ぎ、ユーザーによる調節ボルトの調整を困難にすることができる。

【0025】請求項3に示す如く、前記封印用ナットの上部外周にテーパ部を形成したので、封印用キャップを被せる際に、テーパ部をガイドとすることにより封印用キャップの組み付け性を向上させることができる。

【0026】請求項4に示す如く、前記封印用ナットの鍔部より下部を円筒形状としたので、封印用キャップを被せた後における封印装置の耐封印解除性を向上させることができる。

【0027】請求項5に示す如く、調節ボルトに封印用ナットを螺装して取付位置を固定して封印用キャップを被せて封印する構造において、該封印用ナットの上部を二面中部を有する工具嵌合部を形成し、前記封印用ナットを覆う封印用キャップと該工具嵌合部の間に複数箇所の嵌合接点を有する構成としたので、エンジン運転時の振動による封印用キャップの位置のずれ、がたつきの発生を防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の封印用ナットを取り付けた封印装置の断面図

【図2】封印用ナットの正面図

【図3】封印用キャップ装着時の封印用ナットの正面図

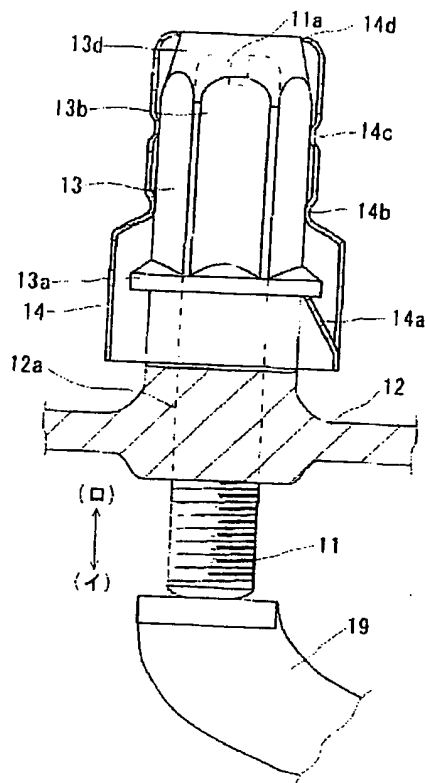
【図4】封印用ナットの正面断面図

【図5】従来の封印装置を示す断面図

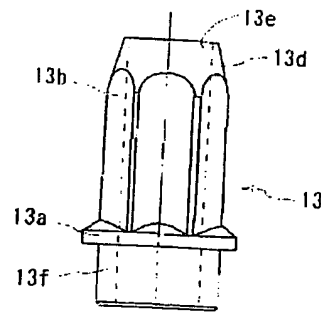
【符号の説明】

- 11 調節ボルト
- 12 取付部
- 13 封印用ナット
- 13a 鍔部
- 13c ネジ部
- 13d テーパ部
- 13e 貫通孔
- 14 封印用キャップ
- 14a 係止部
- 14b・14c 絞り部

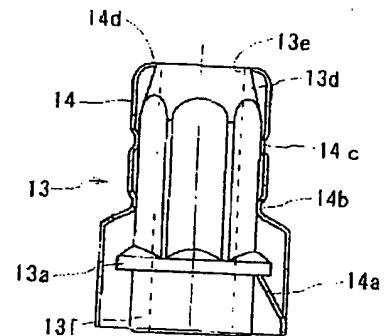
【図1】



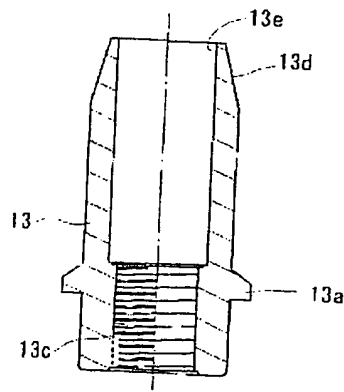
【図2】



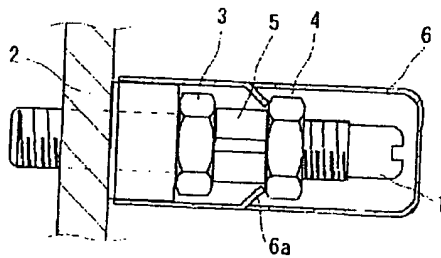
【図3】



【図4】



【図5】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

F16B 41/00

識別記号

F I

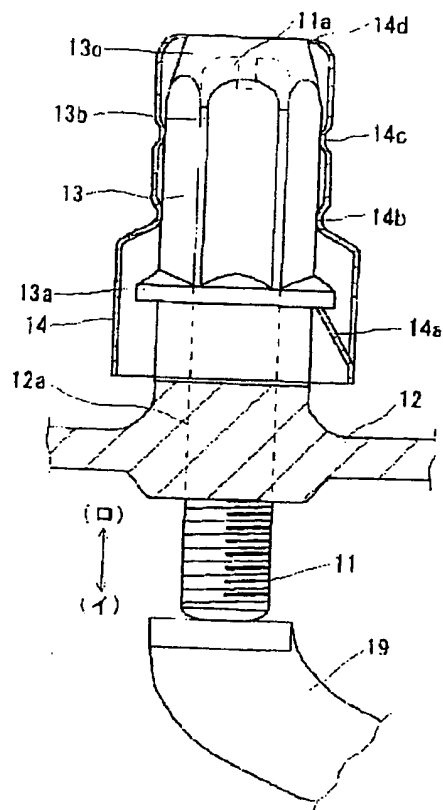
F16B 41/00

(参考)

Z

Fターム(参考) 3G000 AB01 AB02 AC01 AC05 AC06
AC07 BA03 BA13 CA01 CB08
CC08 GA03
3G006 AA07 AB02 AC02 AC06 AD09
BA29 BA39 CD04 DA01 DB07
DB13 DC09

TITLE : SEALING NUT



COPYRIGHT: (C)2003,JPO